

ポストコンシューマー  
プラスチック50%  
以上使用の  
フルカラー複合機  
の開発

ポストコンシューマープラスチック：消費者により一度使用されたプラスチック

令和5年度 資源循環技術・システム表彰 3R先進事例発表会

2023年10月20日

株式会社リコー

デジタルプロダクツビジネスユニット CMC事業本部 キーパーツ事業センター KP開発室 再生樹脂開発グループ

秋葉 康

CMC: Chemical and Mechanical Core

1. リコーグループご紹介
2. リコーグループ環境目標
3. 本技術・システムの特徴
  - 3-1. ポストコンシューマープラスチック使用率を高める課題
  - 3-2. 樹脂材料メーカー連携
  - 3-3. 社内連携
  - 3-4. 成果
4. 今後の展開

## 株式会社リコー

設 立	1936年2月6日
資 本 金	135,364百万円
代 表 取 締 役 社 長 執 行 役 員	大山 晃
本 社	東京都大田区中馬込1-3-6

## リコーグループの概要

グ ル ー プ 企 業 数	240社
グ ル ー プ 従 業 員 数	81,017名 (国内：31,800名、海外：49,217名)
連 結 売 上 高	21,341億円 (国内：37.7%、海外：62.3%)

\* グループ企業数は(株)リコーを除く2023年3月31日現在(連結売上高は2023年3月期)



株式会社リコー  
代表取締役 社長執行役員

**大山 晃**

## リコーデジタルサービス

オフィスサービス・オフィスプリンティング  
(販売)

提供価値

オフィス+リモートではたらく人の課題解決  
現場ではたらく人をつなぐ課題解決

## リコーデジタルプロダクツ

オフィスプリンティング  
(開発・生産・OEM)

提供価値

はたらく人をつなぐエッジデバイス  
デジタルサービスを支えるモノづくり

## リコーグラフィックコミュニケーションズ

商用印刷・産業印刷

提供価値

印刷現場ではたらく人の課題解決

## リコーインダストリアルソリューションズ

サーマル・産業プロダクツ

提供価値

製造・物流・産業の現場ではたらく人の  
課題解決

## リコーフューチャーズ

Smart Vision・ヘルスケア・環境

(新素材・エネルギーハーベスティング) ほか新規育成事業

提供価値

社会課題解決の新規事業創出



テレワーク環境の早期実現のため、  
「在宅勤務バック」を提供



複合機「RICOH IM C3010」



インクジェットヘッド  
「RICOH MH5320/5340」



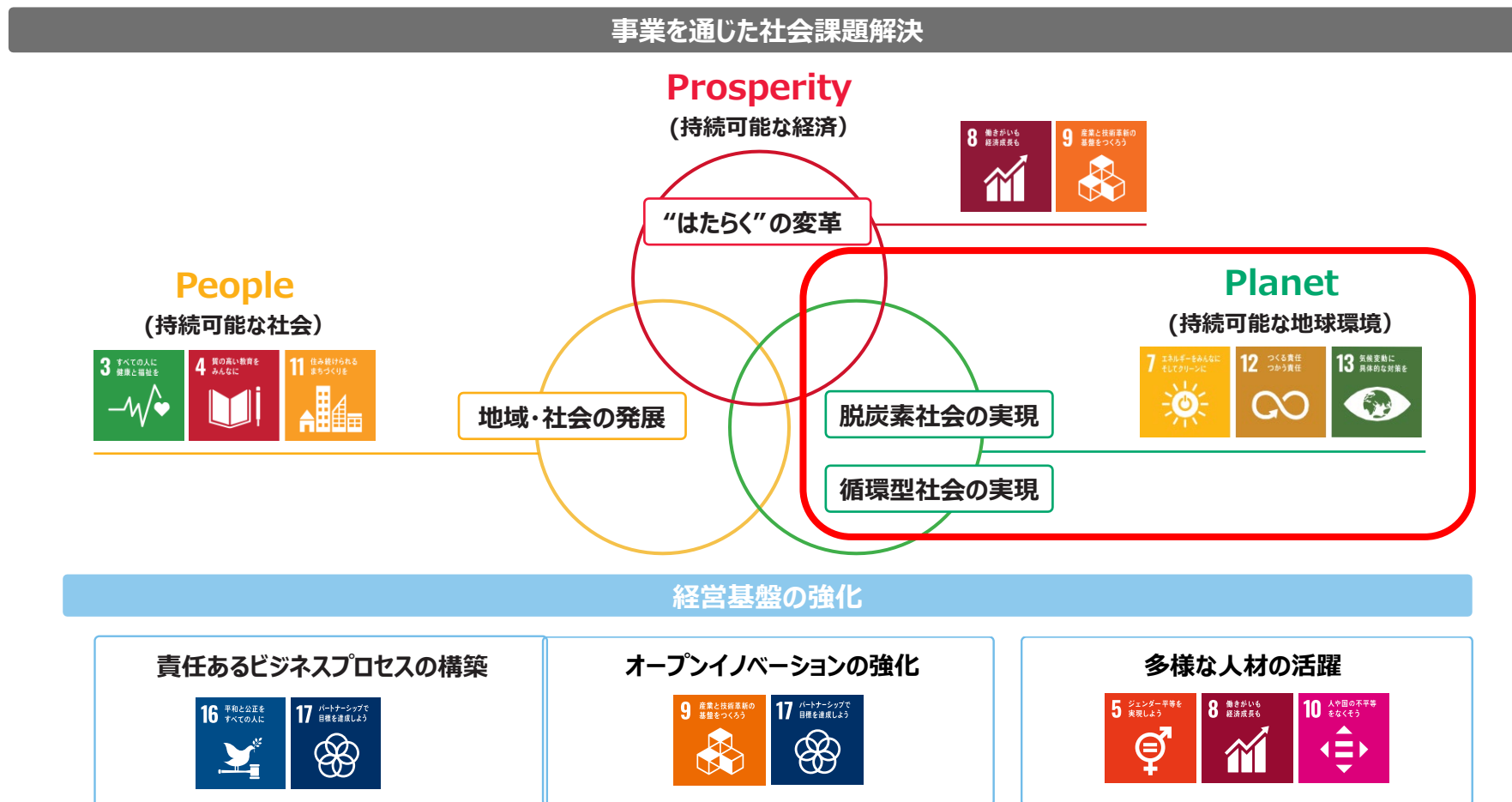
衣料用ケアラベルに使われる  
熱転写リボン



360°カメラ  
「RICOH THETA X」

# 7つのマテリアリティ（重要社会課題）

「事業を通じた社会課題解決」と、それを支える「経営基盤の強化」の2つの領域で、7つのマテリアリティ（重要課題）を特定し、各マテリアリティに紐づくESG目標を設定しています。



# リコーグループ環境目標 「脱炭素分野」と「省資源分野」



リコーグループでは、環境目標の設定方法として、まず最終的に目指す姿「地球環境の再生能力の範囲内に抑える」を想定し、その実現に向けた通過点として目標を設定していく「バックカスティング方式」を採用。

## 脱炭素分野 目標

項目	FY2022	FY2025	FY2030	FY2050
GHGスコープ1、2削減率 (2015年比)	30%	40%	63%	バリューチェーン全体のGHG排出ゼロ
GHGスコープ3削減率 (2015年比) <b>原材料調達のCat.1に寄与</b>	20%	35%	40%	
使用電力の再生可能エネルギー比率	30%	40%	50%	

## 省資源分野 目標

項目	FY2022	FY2025	FY2030	FY2050
製品の新規資源使用率	85%以下	80%以下	60%以下	12%以下
プラスチックに関する目標	画像製品におけるプラスチック回収材使用率50%以上		50%	
	製品包装における「化石資源由来バージンプラスチック」使用量の2020年比50%以上削減		▲50%	
	2020年比50%以上削減(2030年) プラスチック部品・包装材の材質表示と単一素材化完了(2025年)			



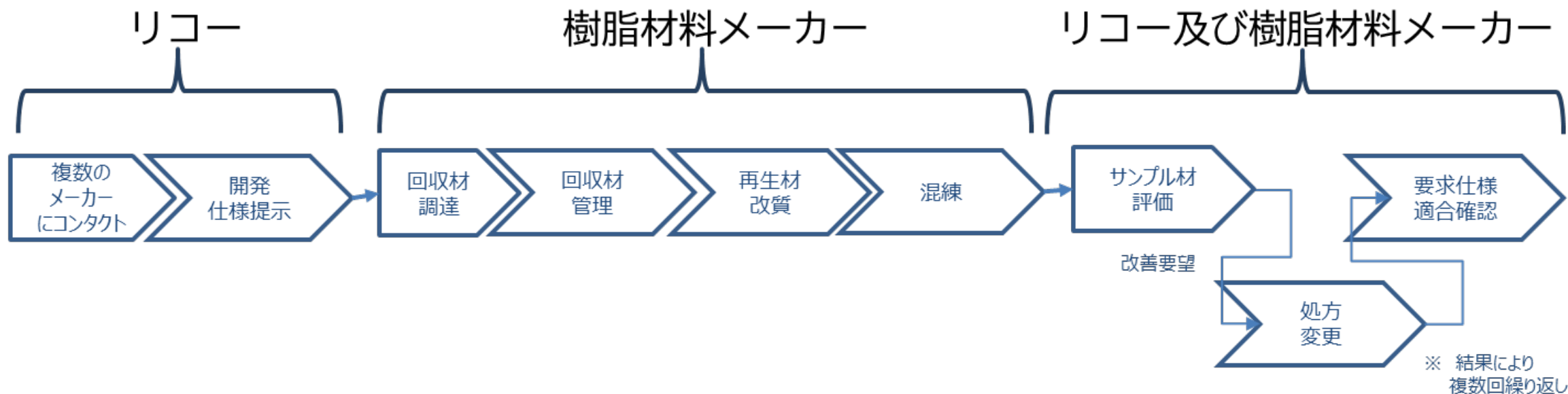
# 本技術・システムの特徴

ポストコンシューマープラスチック：消費者により一度使用されたプラスチック

- ・従来にない新たな体制づくり
- ・ポストコンシューマープラスチック量の確保
- ・用途別高配合率再生プラスチック開発
- ・再生プラスチック使いこなし開発
- ・再生プラスチック搭載コストアップ抑制



## 開発プロセス



- ・様々な樹脂材料メーカーとの協業体制構築
- ・樹脂材料メーカーとのポストコンシューマープラスチック安定供給調整
- ・各用途別の開発要望仕様提示、及びサンプル評価未達仕様に対する改善策協議



	難燃性	強度	外観	寸法精度	耐熱性	その他
材料開発						
製品設計	<ul style="list-style-type: none"><li>・部署横断新プロジェクトチーム発足</li><li>・用途別開発仕様社内調整</li><li>・再生プラスチック使いこなし開発</li><li>・用途別最適ポストコンシューマープラスチック選定によるコスト抑制</li></ul>					
部品技術						
調達						

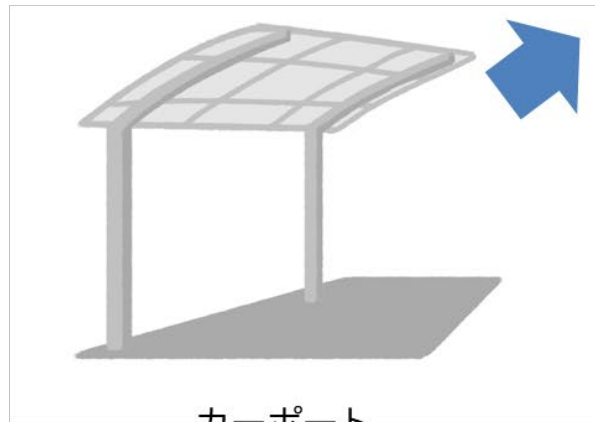


## ポストコンシューマープラスチックに使用される物品一例



ディスク

外装向け再生プラスチック  
=ポストコンシューマープラスチック配合率80%



カーポート



複合機



家電



ペットボトル

RICOH IM C6010/C5510/C4510/C3510/C3010/C2510/C2010

**A3複合機にて業界初となるポストコンシューマープラスチック50%以上使用を達成**

**2030年リコーグループ環境目標達成に向け、  
引き続き他機種への水平展開を図っていきます**

**RICOH**  
imagine. change.

**ご清聴いただき、  
誠にありがとうございました**